

食品安全と サステナビリティの バランスを探る



国際社会が気候変動への対応の緊急性を認識する中、環境対策と最高水準の食品安全と品質の維持の関係について、議論が活発化しています。

最近のウェビナーでは、LRQA、コカ・コーラ、カーギルの専門家が、既存の食品安全戦略に ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを組み込むことの重要性和、潜在的な課題について議論しました。本資料では、ウェビナーから得られた主な洞察をご紹介します。

キンバリー・キャリア・コフィン
サプライチェーン・アシュアランス・
テクニカル・ディレクター、LRQA



ジュヌヴィエーヴ・タフト＝バスケス
責任ある調達および人権ガバナンス担当シニア
ディレクター、コカ・コーラ・カンパニー



ファビアン・スミス
製品安全・品質・コンプライアンス統括
責任者、カーギル



食品安全とサステナビリティの統合

食品業界は、プラスチック包装の削減から水と土地の利用の改善に至るまで、環境問題について長年取り組んできました。これらの要因は、食品安全と品質に直接影響を与え、生産プロセスと販売される製品の完全性に影響を与え、食品メーカーとそのサプライチェーンに大きな機敏性を求めます。

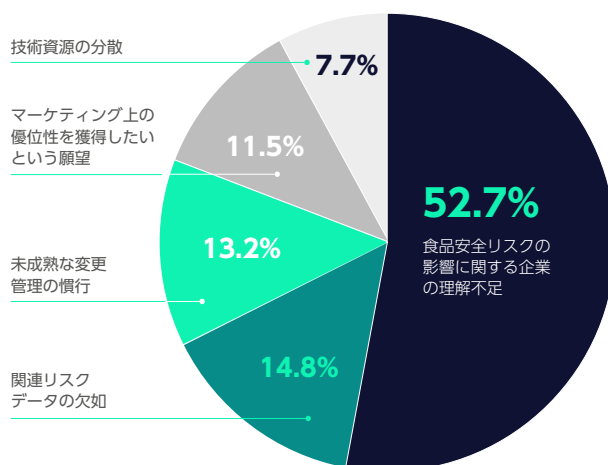
これは称賛に値する進歩である一方で、LRQA のキンバリー・コフィン、さらなる作業がまだ必要であることが浮き彫りになりました。包装における循環型経済の追求は、材料のリサイクルとともに、害虫管理や二次汚染に関連する課題をもたらし、対処する必要があります。さらに、カーボンフットプリントの削減という普遍的な目標には、よりクリーンなエネルギー源への移行を慎重に検討し、そのような変更により生鮮製品に必要なコールドチェーンの完全性が損なわれないことを保証することが求められます。

ある世論調査によると、回答者の 50% 以上が、ESG コミットメントを実行する際の食品安全に対する最大の潜在的リスクとして、食品安全リスクの影響に関する企業の理解の欠如を挙げています。

キンバリー・コフィンは、製造プロセスの変更に加えて、食品安全とサステナビリティの目標を連携させる上で、組織内およびサプライチェーン全体における人々の重要な役割を強調しました。歴史的に、食品安全とサステナビリティはそれぞれ別個の機能として扱われ、それぞれを担当するチームも別々であったため、食品安全とサステナビリティの取り組みを管理するアプローチはそれぞれ独立したものとなっていました。サステナビリティを中核に据えた強固で相互に関連した食品安全の文化が不可欠であることは明らかです。

ある世論調査によると、回答者の 50% 以上が、ESG コミットメントを実行する際の食品安全に対する最大の潜在的リスクとして、食品安全リスクの影響に関する企業の理解の欠如を挙げています。コカ・コーラ・カンパニーのジュヌヴィエーヴ・タフト＝バスケス氏は、協力と結束したアプローチの重要性に賛成し、食品安全の要件と責任ある調達、そしてサステナビリティの要件を整合させる相互に補強しあう戦略の必要性を強調しました。

ESG コミットメントを実現する必要性によって生じる食品安全への最大の潜在的リスクは何だと思いますか？



コカ・コーラ・カンパニーは、LRQA の支援を得て、食品安全審査と責任ある調達およびサステナビリティ審査と検証を連携させるプロセスを試験的に実施しています。この調和された戦略は、食品安全への不可欠なコミットメントを損なうことなく、サステナビリティと責任あるサプライチェーンに貢献する Win-Win の状況を作り出すことを目的としています。

規制とパートナーシップ

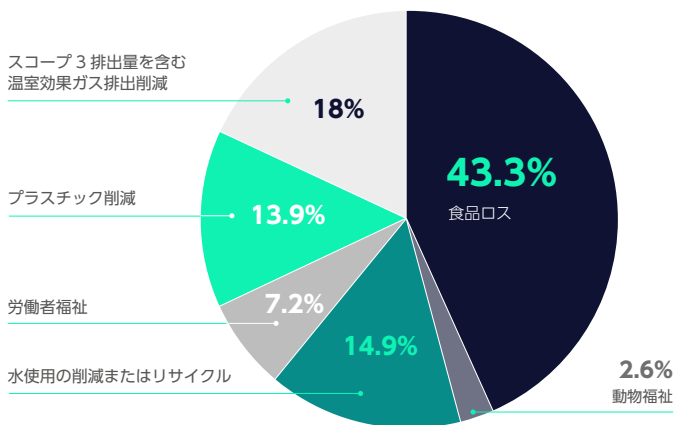
経済の混乱、気候変動、技術の進歩、消費者需要の高まりは、それぞれが規制環境の急速な変化の要因となっています。コンプライアンスへの圧力の高まりにより、食品メーカーは食品安全にとどまらず、責任ある調達と環境への影響の削減へのコミットメントを示すために、サステナビリティとより広範な ESG（環境・社会・ガバナンス）戦略を検討する必要に迫られています。

カーギルのファビアン・スミス氏は、標準化のレベルが異なるため、食品安全とサステナビリティを連携させるという課題があると述べました。食品安全には十分に確立された枠組みがある一方で、サステナビリティは標準化の初期段階にあり、実績のある食品安全の枠組みを活用してサステナビリティの進展を加速できる可能性があります。

ジュヌヴィエーヴ氏はさらに、食品安全と ESG の枠組みの補完的性質を強調し、食品安全と品質のための強固なマネジメントシステムは、労働者福祉に取り組み、ESG の目標を達成するために必要なシステムに似ている点が多いとコメントしました。特にサプライチェーン全体での協力的な取り組みは、時に相反するこれらの優先事項の効果的な管理を実現します。

別の世論調査では、食品ロスが多くの人にとって高い関心事として浮上しており、2024 年の ESG の最優先事項が明らかになりました。

貴社の2024年のESGの最優先事項は何ですか。



キンバリー・コフィン氏は、食品安全の観点から食品ロスの重要性を認識している GFSI（世界食品安全イニシアチブ）ベンチマーク規格の変更が、この意識の高まりに影響を与えていると示唆しました。ファビアン氏は、課題を議論することから、課題を克服するための戦略的方法を策定することへの視点の転換を提案し、確立された食品安全基準を活用することは、食品安全における数十年の経験からの利益を享受でき、サステナビリティの分野における進展を加速さ

せることができると繰り返し述べました。

グローバル・サプライチェーン・マネジメント

リスクの複雑化は、企業が自社のリスクプロファイルだけでなく、サプライチェーンのリスクプロファイルについても説明責任を果たすことを期待されるようになったことで、さらに悪化しています。

キンバリー・コフィンは、成功のための基本的な要素として、一貫したサプライチェーンの透明性の重要性を挙げました。サステナビリティと食品安全の目標を達成するには、サプライチェーン全体を包括的に理解する必要があります。キンバリーはさらに、こうした取り組みの中核にあるのは人材であり、食品安全文化の全体的な理解と水平的な統合が必要であることを再度強調しました。

キンバリーはまた、業界の検証プロセスへの取り組み方も進化する必要があると述べました。従来、食品業界はコンプライアンスを証明するために、検査と審査のプロセスに大きく依存していました。しかし、業界が社会的・環境的リスクにも重点を置くようになるにつれ、変化が生じています。業界は現在、こうしたリスクを管理するための規格を開発し、コンプライアンス検証のより総合的なアプローチを進めています。

リスクデータの統合も重要となります。リスクデータを部門別の視点で見るのではなく、様々な指標やデータの種類の考慮した総合的な視点が今後の鍵となります。キンバリーは、新たな調達場所を決定する前に、労働者の福祉や人権に関連する地理的リスクを評価するという例を用いてこれを説明しました。リスクデータを総合的に分析することで、企業はサステナビリティの目標を達成するだけでなく、食品安全と品質を守るための情報に基づいた意思決定を行うことができます。

今後の展望

グローバルな食品サプライチェーンマネジメントのダイナミズムにおいて、成功には、透明性、人を中心とした戦略、コンプライアンスから積極的なリスク管理へのシフトを重視した総合的なアプローチが必要であることを、業界の専門家であるキンバリー・コフィン、ジュヌヴィエーヴ・タフト＝バスケス、ファビアン・スミスが指摘しています。同時に、ESG コミットメントを達成するためには、規制がサステナブルな慣行の指針となり、食品の安全性を損なうことなく目標を達成するためにはパートナーシップが不可欠となります。ESG と食品安全の相互関連性を認識することで、食品業界は責任あるレジリエントなサプライチェーン・マネジメントのリーダーとしての地位を確立する可能性があります。サステナビリティと食品安全を統合することは、単に必要性があるというだけでなく、現在と将来の持続可能な食品産業への総合的な取り組みを促進する機会でもあります。

詳細はこちら →



Food and beverage

**Fresh
thinking**

お問い合わせ

詳細については、<https://www.lrqa.com/ja-jp/> をご覧ください。



LRQA リミテッド

〒220-6010 横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワー A10 階

本書に示すすべての情報が正確かつ最新であるように、LRQA リミテッドでは細心の注意を払っています。ただし、情報の不正確さや変更について当社は一切の責任を負いません。LRQA は、LRQA Group Limited およびその子会社の商号です。詳細については www.lrqa.com/entities をご参照ください。© LRQA Group Limited 2024

YOUR FUTURE. OUR FOCUS.

LRQA